

「ふくい創生・人口減少対策推進会議」第1回会議概要

日時：平成27年6月19日（金）15：30～17：25

場所：ザ・グランユアーズフクイ3階「天山の間」

【主なご意見】

○大学について

- ・本県の進学希望の高校卒業者約4,000人に対し、県内大学入学者（定員）は2,300人しかなく、受け皿がない。地方の高校卒業者の大部分が東京に流出している状況であり、大学の地方分散を進める必要がある。
- ・地元高校生に対し、優先枠を与えるなど、大学側の取組みが求められている。
- ・大学としては、いかに県外から優秀な学生を獲得するか、その学生たちの県内就職率をいかに高めていくか、という取り組みを進めていく必要がある。
- ・地域の魅力とセットにして高校生にアピールしてはどうか。

○産業・雇用について

- ・就職活動中の若者に対して、アピールする数値を見せていくことが必要。例えば、福井は可処分所得が高い、通勤時間が短い、自由になる時間が長い、など。
- ・県外に進学した学生が帰って来られる環境、特に働く場の整備が必要。
- ・福井県の観光の特徴として、日帰り客が多い。観光客を受け入れても、通り抜けて行ってしまう傾向にあるので、いかに宿泊客を増やすかが課題。
- ・海外からの観光客獲得にも力を入れるべき。現在、ゴールデンルートを通っている海外観光客を、いかに日本海側に回すかを考えるべき。

○幸福度日本一等について

- ・福井県は幸福度日本一の県であるが、県内外を問わず、その魅力が理解されていない。幸福度日本一をもっと「見える化」し、発信していくべき。
- ・幸福度日本一をもっとアピールすべき。福井の良さをいかにして実感してもらうかが大事。そのためにも、県外との交流人口を拡大し、積極的に発信すべき。

○その他

- ・中高生の段階で、福井の住みやすさを理解させる教育をすべき。
- ・縁結び、出会いにはワークライフバランスが大事。
- ・子育ては女性1人では出来ない。男性の育児参加が不可欠。
- ・グローバル化が進展した現在、人口減少問題を「東京VS地方」という視点で見ない方がよい。地方が独自にグローバル化するには、インフラ整備が必要になるが、これからは「福井から世界へ」がスタンダードになると思う。
- ・福井県は「平均的にいい県」として、積極的な選択肢になり得ていないのではないか。インパクトのある施策が求められている。